

第 20 回廿日市市産業振興審議会 議事録

日 時： 令和 7 年 11 月 14 日（金）13:00～14:30

場 所： 廿日市市役所 3 階 政策審議室

出席者

(委員)

- ・ 県立広島大学 副学長 上水流委員(本審議会 会長)
- ・ 広島修道大学商学部 教授 富川委員(副会長)
- ・ 広島工業大学 副学長 林委員
- ・ 廿日市商工会議所 会頭 澁谷委員
- ・ 佐伯商工会 会長 夏原委員
- ・ 宮島町商工会 会長 松本委員
- ・ 廿日市市金融懇談会 幹事支店長(広島銀行廿日市支店 支店長)末次委員
- ・ 廿日市公共職業安定所 所長 地主委員
- ・ 廿日市市 副市長 村上委員

※大野町商工会 会長 田畠委員、ひろしま農業協同組合 佐伯中央地域 統括長 野村委員、一般社団法人はつかいち観光協会 代表理事会長 塩田委員、一般社団法人宮島観光協会 会長 中村委員、中国経済産業局 総務企画部 企画調査課長 中野委員、広島県商工労働局 地域経済支援担当部長 石濱委員は欠席

(事務局)

- ・ 廿日市市 産業部長
- ・ 廿日市市 産業部 産業振興課長
- ・ 廿日市市 産業部 農林水産課長
- ・ 廿日市市 産業部 観光課長
- ・ 廿日市市 生活環境部 ゼロカーボン推進課長
- ・ 廿日市市 生活環境部 循環型社会推進課長
- ・ 廿日市市 産業部 産業振興課 企画産業係 係長
- ・ 廿日市市 産業部 産業振興課 企画産業係 主任
- ・ 廿日市市 産業部 産業振興課 企画産業係 主任主事

1.開会

開会あいさつ、委員紹介、資料説明（事務局：産業振興課長）（記録省略）

会長挨拶（上水流会長）

- ・皆様、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。
- ・本日 9 名ということで、若干寂しい状況ではございますが、色々ご意見を賜れればと思っております。この産業振興ビジョンは、これまで議論してきまして、内容も詰まってきたことから最終的なご確認をいただくような作業になろうかと思っております。掲載写真についてのご意見もありますので、そういうところも見えていただきながらご意見を頂戴できればと思っております。
- ・また、今回は目標や目標指標などの議論も大事になるかと思っております。委員のそれぞれのご専門から、ご意見をいただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2.議題

議題(1)次期廿日市市産業振興ビジョンの草案について

上水流会長

- ・それではこれより議題（1）次期廿日市市産業振興ビジョンの草案に入ります。事務局よりご説明をお願いいたします。

事務局

（産業振興課係長より資料説明：記録省略）

上水流会長

- ・ご説明ありがとうございました。ご覧になられて思うところ、また前回の会議の意見を受けて修正をしていただいた部分もありますので、そういったところもご確認いただきながら、お話をいただければと思います。
- ・文言の修正とはなりますが、12 ページの需要（支出）部門の「需要各区得」は「需要獲得」の誤字かと思われます。
- ・17 ページでは「(注) 1.～」となっていますが、25 ページでは「*～」となっているため、統一した方が良いと思います。
- ・39 ページの施策体系について、それぞれの個別施策では「地元事業者の魅力発信支援」のように文末が「～支援」となっていますが、施策 1-2 の①は「多様な人材の活躍」と「～活躍」で終わっているので、「～活躍の支援」などと改めた方が良いのではないかと思います。

ます。このような単語の終わり方が気になりましたので、一度見直していただいて、主語が市であった場合にどうするか検討をいただければと思います。

- ・それでは議題1に関しては、細かい箇所のみ指摘として、これをご検討いただき、最終的な形としたいと思います。ありがとうございました。

議事（2）次期廿日市市産業振興ビジョンの目標指標・個別成果指標（案）について

上水流会長

- ・それではこれより議題(2)次期廿日市市産業振興ビジョンの目標指標・個別成果指標(案)に入ります。事務局よりご説明お願いいたします。

事務局

(産業振興課係長より資料説明：記録省略)

上水流会長

- ・ありがとうございます。委員からの意見として、具体的な指標の提案があっても良いのでしょうか。

事務局

- ・問題ございません。

上水流会長

- ・それでは、委員の皆様にご覧いただきご提案をいただき、事務局の方で引き取っていただいて、揉んでもらいたいと思います。委員の皆様、何かありましたらお願いいたします。
- ・例えば施策2-2など、既に目標値が入っている箇所があります。このように、何かしらの数値が入っているところはすでに市の方でデータをお持ちという理解で良いのでしょうか。

事務局

- ・把握しております。

上水流会長

- ・目標値は他の審議会などで既に定めているという認識でしょうか。

事務局

- ・創業・事業継承支援の充実に関しては、既に別の計画で定められているものとなっています。

上水流会長

- ・そうしたものに合わせて指標が書いてあるものと認識しました。
- ・施策 3-1 と 2 では目標指標が未定となっています。現時点では案はないのでしょうか。

事務局

- ・3-1「観光による地域経済活性化」の目標指標は観光消費額の総額になるものと思います。
この個別成果指標では、具体的取組である観光消費の拡大により最も影響を受ける宿泊客数が指標となります。そして、2 番目の観光客の回遊性向上の取組の指標については、今の観光客の捉え方が施設ごとにとっているため、1 人が何施設か訪問すると重複することを考えると、観光客数が入るのが通常かと考えています。
- ・ただ、あらためてアンケートを取るなどのことがあれば、今ある数字ではなくても、委員の皆様から「こういった捉え方はいかが」といった提案をいただければ、そちらを取り入れても良いと考えています。通常の観光客数や宿泊客数、観光消費額は観光振興計画の指標でも出てくるので、敢えて産業振興ビジョンに計上するべきかどうかは検討する必要があるかと思っています。
- ・また、施策 4-1 産業支援ネットワークの充実と連携強化の個別成果指標の中に「観光地域づくり体制の充実・推進」という取組があります。観光の施策としては、DMO を組織する予定で、その指標として考えているのは、DMO が DMP で様々なデータを分析し、各企業が閲覧できるように発信をしていることを踏まえて、DMP の登録者数の増加になります。

上水流会長

- ・ありがとうございます。具体的な文言ではなくとも、「こういうことが分かるようなものを出してほしい」など、指標を作る上で参考になるご意見を頂戴できればと思います。
- ・まず、委員の皆さまには、施策 1 に関する部分で何か気になられる点があれば、仰っていただきたく思います。

澁谷委員

- ・施策 1-1 地元就業の促進と人材の育成・確保の個別成果指標である「人材の育成支援」の人材というのは、若い人とすべての人、どちらを指しているのでしょうか。もちろん、この両方を支援しなければならないものの、小さい子どもたちがこの街に住んで、将来働きたいと思ってもらえるような施策があった方が良いのではないかと思います。

上水流会長

- ・市民アンケートでは、「若者の地元企業の認知・関心度」の設問がありますが、それとはまた違うアプローチということでしょうか。

澁谷委員

- ・小さい子どもたちにどうアプローチをしていくかを考える必要があります。例えば、けん玉ワールドカップのような機会は、子どもたちにとっても良い機会になると思います。それを通じて企業を知ってもらうことができ、そこで仕事をしてみたい、というような考えにも繋がるのではないのでしょうか。

上水流会長

- ・地元の企業がやっている様々な取組や廿日市市の魅力を子どもたちに知ってもらうイメージという認識で良いのでしょうか。

澁谷委員

- ・その通りです。

上水流会長

- ・ありがとうございます。他に何かご意見はありますでしょうか。

地主委員

- ・仕事を探している方に地元企業を知ってもらうことが大事だと思います。現在、マッチング支援のもとになるものに求人票がありますが、これは文字情報であり、それだけでは分からないことがあります。このことから、職業安定所では、実際の職場環境を求職者に伝えることに取り組んでいます。具体的には、職業安定所の職員が事業所を訪問し、暑さや寒さなどの対策をしているか、資格取得の支援や定着率なども含めてアンケートを取ることや、現地の写真の撮影などを通してビジュアルに訴える資料を作成し、求職者に見ていただくことで、会社の魅力を発信してもらっています。
- ・また、仕事を探している方と一緒に事業所見学をする機会を設けています。求職者が初任給や休暇の取得など、会社で直接聞きづらいことを職業安定所が代わりに聞くことも行い、事業所の魅力を知ってもらう取組を行っています。
- ・企業アンケートの中に「人材が充足していると回答した企業の割合」とありますが、充足とは、仕事を探している方に対して何人採用者が決まったのかを示しているものであり、職業安定所ではこのことに力を入れています。
- ・他にも、事業所に、職業安定所の会議室を貸し出して、企業説明会を開催しています。事業所に会場を使っていただくことで、求職者にとって参加の敷居が低くなります。面接会ではないので履歴書も必要ありません。また、事業所からのアピールもできる機会となっています。
- ・以上、安定所の取組になりますが、ご案内させていただきました。

事務局

- ・ご意見の通り、子ども達へのアピールや企業の PR は大事な取組なので、市としても取組をやらなくてはならないものと考えています。したがって、このことについては個別施策①「地元企業の魅力の発信の支援」でしっかり取り組んでいきたいと考えています。その成果については、アンケートにおける「若者の地元企業の認知・関心度」で図りたいと思います。
- ・個別施策③の人材育成については、今働いている従業員に対する育成の支援となっています。例えば、中小企業大学校への受講費の支援などを行っていますが、それに加えて何か取り組めないか考えているところです。

上水流会長

- ・ありがとうございます。小さな子どもへの直接のアンケートは難しいので、年齢はある程度上になるものと思われれます。

澁谷委員

- ・わが社では、働いておられるお子さんにモノ作りを体験してもらう機会を設けました。これは父などが働いている姿を見ながら、自分でモノを作る体験であり、このように、「自分でやった」という体験がもっとあれば良いのではないかと思います。

林委員

- ・具体的な指標については、アンケートを踏まえながら変わる可能性があるということでしょうか。

事務局

- ・予算が議決されないとアンケートは実施できないものとなります。したがって、議決されなかった場合は、別の方法を考えなければなりません。

林委員

- ・施策 1-1 で言うと、最終的なゴールとしては「人材が充足している」ということを目指すもので、これはある程度大きな目標になります。したがって、それを分解したものが、下にある個別成果指標になると思います。
- ・その点で、地元の若い人が地元の魅力を知ることや就職の後押し、就職した後も自分らしく働き続けるための施策に対し、指標がデジタル化に取り組んでいる企業の割合」としてするのは噛み合わないように思います。デジタル化をしていない企業でも自分なりに成長を実感できていれば、最終的なゴールである人材の充足に繋がると思います。デジタル化よりも、もう少し広い指標を取っていければ、最終的な KGI や KPI にうまく繋がるのではないのでしょうか。指標を決めていく時に、DX など限られた要素で把握しない方がよ

ろしいかと思います。

上水流会長

- ・ありがとうございます。人材育成の支援のところもアンケート自体は色々なことを聞く項目がありますが、DXだけに絞っていかない形で検討する必要がある、というご意見として理解しました。

富川委員

- ・人材育成や確保について、学生が企業を選ぶ優先順位では福利厚生がトップになっています。このことを考えた時に、施策 1-2 では、そのような福利厚生に関する支援が、男性の育児休業取得率の 1 つしか挙げられていません。ここに例えば有給休暇の取得率や残業や副業支援など色々なものが入ってくるかと思います。
- ・このことは新卒の人材確保に繋がる場所があるので、施策 1-1 と 1-2 との棲み分けは難しいものの、そういったことを考慮した指標があっても良いのではないのでしょうか。

上水流会長

- ・ありがとうございます。今の大学生が企業を選ぶポイントは我々の世代の感覚とは異なるように思います。有給休暇の取得率も働きやすさに繋がるものと思います。
- ・富川委員からは、「若者を考えた時の働きやすさが感じ取れるような指標があれば」といったご意見だと認識しています。私からも、どこに入れるかは別として、そういったものを入れていただきたいと思います。

富川委員

- ・廿日市市では有給休暇を取れる会社が多い、というイメージができるくらい、色々なものをアピールできた方が良いと思います。

上水流会長

- ・他にいかがでしょうか。例えば、女性の管理職割合も数値としてはあっては良いかと思います。企業も公開するようになってきています。
- ・それでは、施策 1 に関する議論は以上とさせていただきます。では、施策 2 に関して、何か意見があればお出しいただきたいと思います。

林委員

- ・施策 2-2 の目標指標で、「営業利益が増加した企業の割合」を掲げていくことは理解しつつも、営業利益が挙がってなくても、どんどん投資をしていきながら成長を感じている企業もいますので、果たしてこの指標で取れるのかが良く分かりません。
- ・来年度、どのくらいの人数を採用しようかといったことや設備投資をするかどうかの調

査はあり、それは会社の成長度合いを良く表していると思いますが、営業利益と書いた時に、その辺りはどのように関わるのでしょうか。

事務局

- ・事務方としては、営業利益にしていくか、経常利益にしていくかを考えましたが、一方で、営業利益にしたのは、そうした要因以外の純粋な営業部分を見られるかと思ったことにあります。ただ、林委員のご指摘の通り、投資意欲などは図れないため、商工会議所 DI などを参考にしていくのは1つの方法として考えられるのかとも思います。

上水流会長

- ・ありがとうございます。他の計画とも整合性を取りながら事務局にご検討いただきます。

澁谷委員

- ・新機能都市開発について、外から入ってくる企業と廿日市市内との企業との比率はどのようなになっているのでしょうか。

事務局

- ・廿日市市内の企業がおおよそ6割程度となっています。

澁谷委員

- ・新しい場所に、市外の人々が入ってくるのかが気になりました。市外からの企業が4割であれば、かなり良い数字になると思います。

上水流会長

- ・市内の企業を大切にしつつも、市外から来る企業も増やして雇用機会を増やしていくことは重要です。澁谷委員からは、そうした数値も見えていく必要があるのではないかというご意見であると認識をしています。ご指摘の通り、外からの流入は大事なことで、何かしらそこが分かるようなデータがあると良いと思います。これも事務局においてご検討いただければと思います。
- ・続いて、施策3に関してご意見を頂戴できればと思います。指標について、未定の箇所もありますので、このような指標があったら良いのではないかと、といった案を出していただけたらと思います。

澁谷委員

- ・施策3-1の目標指標については、観光消費額の他にどのようなものが考えられるのでしょうか。

事務局

- ・消費額全体か、1人当たりの観光消費額を考えることが観光振興の指標として一般的となっています。ただ、産業という視点の中で観光客数が増加することが果たして市内の産業の発展になるのか、少し違うのではないかと、この思いもありますので、ここについてはどういったものが良いのか悩んでいるところです。

松本委員

- ・宮島では、滞在時間や旅行日数、観光客が何を目的としているかを指標としています。また、個人あたりの消費額が4,000円ほどとなっており、これを増やしていくには旅館の滞在客数の増加が鍵となります。

上水流会長

- ・この指標を取るのであれば、訪問客にアンケートを取る必要があると思います。市民・企業アンケートとの整合性をどう図るかということにもなりますが、今ご指摘いただいた観点も必要なのではないかと思います。
- ・廿日市ブランドはどのように作っていくべきでしょうか。『『木のまち はつかいち』の深化と展開』は施策3-2にあり、その認知度を測っていますが、これまでの廿日市というブランドをどう認識してもらうかの議論を受けて、それを考えられるような他の指標がないのかと感じました。
- ・そして、観光客の回遊性も大事だと思います。この中で3-1「観光客の回遊性向上」の指標は何にするかご意見はあるかと思いますが、やはり回遊性を意識していくことは必要であると思います。
- ・また、最近は、安い値段で多くのものを売るのではなく、質で勝負し、高い収入を得られる観光モデルが徐々に大きな意味を持ちつつあります。そういったものを踏まえた指標があると、廿日市市の観光の力の育成に繋がると思います。

富川委員

- ・施策3-1の回遊性の促進に関して、宮島以外への観光客の誘致が趣旨だと思います。これについては、宮島以外の観光施設の利用者数を統計として取れると思いますので、そういったところの利用者数をもとに、現状として指標を出して、数年後にもう一回取るなどして、その推移を測ることができるのではないのでしょうか。
- ・施策3-2の⑥「商店街活性化支援」について、個別成果指標が商店街でのイベントの開催回数となっていますが、回数の問題ではなく、イベント開催の参加者数や新しいイベントなどが出来たかなどという指標の方がより良いと思います。
- ・施策3-3の新たな関係人口の創出について、私の関係人口のイメージは地域内の専門人材ではなく、観光や遊びで来た人がそのうち移住したいと希望し、徐々に人が増えていく、というものです。地元のNPOや活動をしている団体があれば、そちらにたくさん人が来

てくれるよう支援する指標があれば、と考えました。

上水流会長

- ・ありがとうございます。何か事務局の方からご意見はありますでしょうか。

事務局

- ・施策 3-1 について、観光振興基本計画では、宮島に来た方をそれ以外の地域へいかに送客するか、という役目でしたが、現実では宮島に来る方と宮島以外に来る方とのターゲットは違うことが見えてきています。ただ、周りの施設が増えると、宮島からの回遊が増えた、と判断できるのではないかと思いますので、指標は検討していきたいと思います。

富川委員

- ・最近、宮島口にホテルが増えてきており、これまでよりは回遊性が向上する可能性はあるのではないのでしょうか。

夏原委員

- ・インバウンドと日本人を対象に、アーチェリーや釣り堀などへのツアーを開催しており、継続的にやっていこうという動きがあり、市内からも人を呼び込むきっかけとなっています。アンケートを取り、反響がどれほどあったか、外国人にとっての値段の高さなども含めてデータを収集しています。

上水流会長

- ・ありがとうございました。回遊性の部分について、分かりやすい指標があれば良いと思いました。

事務局

- ・富川委員のご指摘にあった関係人口について、52 ページで、取り組みたいことを記載しています。イメージとしては一般的な関係人口とは異なるかと思っています。意図しているところとしては、市内に埋もれている人材を掘り起こしていこうとするところで、関係人口に繋げていきたいと考えています。NPO に関連して、本当の意味での交流人口も重要ではあると思っていますが、そこにたどり着くのは難しい、という判断から、まずは段階を踏んでやっていきたい、という判断となっています。

上水流会長

- ・施策 3-2 の地域資源の発掘・活用の目標指標のイメージはあるでしょうか。

事務局

- ・地域資源はモノから人まであり、まとめて分かるような指標は思い当たらないのが正直なところですよ。

上水流会長

- ・廿日市市の人口流出としては、どのような状況でしょうか。

事務局

- ・自然減を含めると減ってはいますが、社会増減だけで見ると社会増となっています。

上水流会長

- ・地域の人が発掘されたり、活躍したりして、関係人口が増えてくれば、個別指標の中で、社会増だけが結び付くかと言えばそうではありませんが、社会増が続いていくことは指標の1つになるかと思いました。
- ・富川委員のご指摘の通り、商店街の活性化にあたり、イベントの開催回数はイベント疲れにも繋がることもあり、指標として適切ではないように思います。そうであれば、商店街の店舗数はどうでしょうか。店舗数が減っていくのは避けられないのかもしれませんが、ある程度店舗数の減少を減らし、人材の方が新たに商店街で店を開くなどがあれば良いのではないかと思います。

事務局

- ・前回の審議会では、一次産業に関する記述が薄いのではないかと、との議論がありました。この産業振興ビジョンには、一次産業である農業や林業、水産業も含まれてますが、詳細な方針は個別のビジョンや計画の方に記載されています。ただ、最も肝心なのは生産額となりますので、この産業振興ビジョンの中で一次産業の部分を見ていこうとすると、施策3-2に記載するものと考えています。
- ・先ほど廿日市のブランド化に関する議論がありましたが、そこをしっかりと打ち出していくには、市内向けの取組だけでなく、市外に向けた取組も重要です。ブランド化に対しては、市民の愛着とか誇りなどの意識の高さなども含めて、市民と観光客に向けてアンケートを取ることを考えています。

上水流会長

- ・先ほど子どもたちに廿日市市内の企業を知ってもらう話もありましたが、そのように地元に住んでいる方に愛着を持ってもらうことは大事だと思います。事務局からの発言は大事なご指摘かと思いました。
- ・それでは、施策3に関しましては以上とさせていただきます、最後、施策の4に関しましてご意見等を頂戴できればと思います。

- ・先ほど、施策 4-1 の②観光地域づくり体制の充実・推進について、個別成果資料のところで、DMO を来年度作られるとのことですが、これは組織後のアンケートなどをお考えということでしょうか。

事務局

- ・アンケートはもちろん実施しますが、DMO の 1 つの大きな指標として、地域の観光産業事業者からデータをいただいて、それを分析して戻していくことも大きな仕事ですので、データ活用について興味を持っていただいて登録していただける企業の数も指標になるかと思います。

上水流会長

- ・DMO の持っているデータを含めた活用を指標にしたいということですね。
- ・施策 4-2 の個別成果指標について、産業支援制度を知っているという認知度を測る指標が良いのでしょうか。それともこの制度の活用の度合いを測る指標が良いのでしょうか。活用しやすいものをニーズに合わせてどう作っていくか、という考え方になりますが。

事務局

- ・これを設定した背景としては、この制度があまりに知られていない状況があります。まずは知ってもらうことが必要と考えています。

林委員

- ・成果指標のところに「支援制度が分かりやすく、使いやすいと回答した企業の割合」といった指標があり、その手前の段階にあたる個別成果指標として、認知度があるのが自然かと思います。

松本委員

- ・事業者からの相談回数も指標として考えられるのではないのでしょうか。

富川委員

- ・施策 4-1 の「支援機関を活用し、支援に満足していると回答した企業の割合」では、その対象は利用した企業になると思います。また、①の「地域産業体制の強化」の個別成果指標も「支援機関を活用していると回答した企業割合」ですので、利用する側の視点となっています。一方で施策 4-2 の個別成果指標では認知度を聞いているので、認知度と利用者による活用のどちらが先なのか、分かりづらいように思いました。
- ・また、「産業支援ネットワークの充実と連携強化」については、受入母体の認知度を高めるなど、しっかり定着させた上で利用者を増加させることになりそうですが、実際の指標を見ると、逆になっているように思います。

上水流会長

- ・施策 4-2 では、市が作っている支援制度の利用、施策 4-1 はネットワークを作っていくような組織があって、そこをどう活用しているのかというイメージを持っています。しかし、この文面だけを見ると、施策 4-1 が利用、施策 4-2 が認知度となっています。順番が逆であることから、ここがより分かりやすく整理できると良いと思います。
- ・また、施策 4-1 の個別成果指標が「地域産業支援体制の強化」で、施策 4-2 の個別成果指標が「地域産業支援制度の強化」となっています。「体制」と「制度」を使い分けていますが、富川委員のご指摘のように分かりやすく整理し、ネットワークの充実度が分かるような聞き方ができると良いと思います。
- ・議題 2 については、市民や企業アンケートの予算が議決されれば実際に行うということで、これについて委員の皆様からの反対はないとのことで、しっかりと進めていって欲しいと思います。
- ・一方、具体的にどのような指標を作るのか、また個別の成果をどう図るのかについては、委員の皆様からご意見を頂戴いたしましたので、ブラッシュアップしたものが今後提示されていくという理解でおります。
- ・最後に、議題 1 と議題 2 も含めて村上委員からご意見を願います。

村上委員

- ・廿日市ブランドをどう上げていくかについて、全国的に廿日市の認知度が低いことを受けつつ、指標としてどうやって測るかを考えなければなりません。大東建託の全国調査では、中国地方のブランド 1 位が岡山県倉敷市でして、廿日市市は 10 位以内にも入っていませんでした。宮島があるのに、廿日市自体には認知がないとのことで、どうやってこの廿日市を日本のブランドにしていくかを考えていかなければなりません。世界から見た際に、宮島にはかなりのブランドがついている中、宮島＝廿日市と刷り込んでいくことで、廿日市自体のブランドを上げていきたいと考えています。これについて、どのようなことができるのかは、本日いただいた意見も参考にしながら、計画を進める中で考えていきたいと思います。
- ・また、廿日市市では観光振興計画も同時に策定をしています。これには、廿日市と宮島がしっかりと結び付き、宮島以外の観光客がどれだけ増えたかも重要な指標になるかと思っていますので、行政として、宮島だけではない形でしっかり考えていきたいと思っています。
- ・今回、この産業振興ビジョンについてご議論いただいて、ある程度の合意が得られたと思いますので、しっかりと進めていき、指標についてもご意見をもとに次回の宿題として検討を進めていきたいと思っています。

3.閉会

事務局

- ・今後の資料1のビジョン案のスケジュールについて、12月の議会への説明を経て1月頃にパブリックコメントを実施します。それを受けて修正完成したものを3月頃を想定している次回審議会にて委員の皆様にご提示し、来年度から実行していきたいと考えています。

上水流会長

- ・ありがとうございます。以上で議事を終了いたします。それでは進行を事務局にお返しいたします。

事務局

- ・本日、審議いただきました内容につきましては事務局内で整理させていただきまして、議事録を配布させていただきたいと思います。以上を持ちまして第20回廿日市市産業振興審議会を閉会とさせていただきます。委員の皆様、ありがとうございました。